

言語聴覚士学科（昼間２年制）

養成目的

本学科は、医療・福祉分野で重要な役割を担う言語聴覚士を養成することを目的として設置している。医学知識に加えて、言語・聴覚・音声・心理など人間のコミュニケーションに関するさまざまな知識・技術を身につけると共に、医療福祉領域におけるチーム・アプローチの重要性を認識し、専門職の一人としての協調性、及び独自性を備えた人材の育成を目標とする。

養成目標

（１年次）

- ・医療福祉領域の専門職にあつては常識と考えられる基本的医学知識をさまざまなテキストや資料の中で理解する。
- ・心理的・言語的及び、生物学的な視点から人間のコミュニケーションの諸相を認識する。
- ・成人や小児のコミュニケーション障がいに関する症状や原因などの基礎知識、さらに検査、評価、指導などの基本的技術を学習する。

（２年次）

- ・コミュニケーション障がいの多様性を把握すると共に、それぞれの障がいに応じた検査評価、訓練指導のあり方、技法を身につける。
- ・相談・マネジメントなど臨床的行為を的確に行う実践能力を体得する。
- ・さまざまなコミュニケーション障がいに対応し得る包括的なコミュニケーション能力を養うと共に、医療・福祉における言語聴覚士の役割と責任を自覚する。

取得目標資格

言語聴覚士（国家資格）（卒業時に受験資格取得）

就職分野

病院（リハビリテーション科、耳鼻咽喉科など）、リハビリテーション関係施設、クリニック、老人保健施設
児童通園施設（肢体不自由、知的障害）など

職 種

言語聴覚士